健康生きがい 福祉都市

家庭奉仕員を大幅増員

介護支援センターも5施設に

生き生き高齢者が増えています

高齢者福祉施策では、在宅福祉として家庭奉仕員の派遣を拡充、二億六千九百万円を計上。非常勤家庭奉仕員を三十一人から四十六人に、登録家庭奉仕員を二十五人から六十人に増員するほか、医療との連携を必要とする重介護ケースを特別養護老人ホームに委託し、家庭奉仕員二十四人（三年度は四人）を配置します。デイサービス事業は、新たに有明園、あしぬま荘を加え四施設に、計上額は一億二千四百万円。また在宅介護支援センターも拡充、五施設（三年度は一施設）で行っていこうとするものです。特別養護老人ホームへの短期入所は、専用ベッドを二十四床増やし五十八床に、四月からオープンするシルバーピア石山では在宅虚弱老人のための入浴サービスも開始します。緊急装置付電話は百五十台増やし、新年度は二百五十七台となります。

生きがい施策では、居室整備資金融資を拡充し、高齢者仕様住宅に割増融資を始めるとともに、五年度完成を目指して建設される中地区コミュニティセンターにシルバーワークプラザを建設、シルバー人材センターの拠点整備を図っていきます。

老人福祉施設の整備では、松浜病院とこばり病院に建設される特別養護老人ホームと外部の在宅福祉サービスを取り入れた新しい型の軽費老人ホーム・ケアハウス「恵風園」（仮称）に助成。四年度は一億一千万円を計上しています。

また終身介護型ケア付高齢者住宅の調査にも取りかかっていきます。

国保料も引き下げ

社会福祉施策では、新潟市社会福祉基金へ新たに四億五千万円積み立て十一億五千万円とするほか、新潟市社会福祉計画の策定や福祉総合システム電算導入を二億二千万円計上して図り、時代に対応した社会福祉施策を展開していきます。また福祉公社設立などの調査を行い、行政関与型民間福祉サービスも検討していきます。

国民健康保険については、被保険者の負担軽減を図るため、所得割を一三・五％から一一・八％に、均等割を一万一千四百円から一万八百円に、世帯平等割を一万八千六百円から一万八千円にそれぞれ引き下げます。また助産費の支給基準は十五万円から二十四万円に引き上げています。

生活安定施策では、四・五年度で改築する救護施設「有明荘」の改築に四年度は六千百万円を助成します。

私立保育園の改築などに助成

児童福祉施策では、翠松保育園の改築や赤塚保育園乳児室増築に一千六百万円を助成。また就労形態の多様化などに対応しようと一時的保育や長時間保育サービスを各一園で行うほか、保育料も国基準に比べて二一・七％軽減しています。学童保育「ひまわりクラブ」は、坂井輪・牡丹山小学校区に新設します。

福祉施設への助成を拡充

福祉作業所でみんな明るく

障害者福祉施策では、心身障害者小規模施設運営費の助成を大幅に増額し一億三千万円を計上。さらに川端福祉作業所など二施設を新たに開設します。また在宅介護サービスに欠かせない家庭奉仕員の派遣を大幅に拡充し、非常勤家庭奉仕員を十三人から二十二人に増員。自立困難な障害者には共同生活の場であるグループホームへも二施設助成を始めます。上肢障害者や聴覚障害者のために、プッシュ式電話器を貸与するほか、重度身体障害者に対する緊急通報装置助成の拡充も図っています。さらに新しい施策として、手話を理解できない聴覚障害者への要約筆記者の派遣も行います。また九月、新潟市で開催される全国ろうあ者体育大会へも助成していきます。

成人病対策に新事業 乳がん検診を実施

がん対策の新規事業として、三十歳以上の女性を対象とする乳がん検診実施のため三千五百万円を計上。胃がん検診ではレントゲン直接撮影の対象者に新たに五十八歳と五十九歳も加えて基本健康診査の内容を充実します。なお、市ではこの胃がん・乳がん検診などの各がん検診と基本健康診査の無料対象年齢を、いずれも国制度よりも引き下げ市民負担の軽減を図っています。

病気の後遺症や高齢化などで体が不自由になった人を対象に市内四カ所で機能訓練を行っていますが、新たに石山団地内のシルバーピア石山でも実施します。

歯科対策としては、新規に在宅寝たきり者に対して、訪問歯科診療事業を実施。乳児から高齢者まで生涯にわたる一貫した歯科保健対策を推進するため生涯歯科保健計画を策定します。

三種混合予防接種 医療機関接種に

予防接種では、これまで集団接種だった三種混合（百日せき、ジフテリア、破傷風）で、接種効果と保護者の利便性を図るために、健康状態のよいときに医療機関で接種できる個別接種への移行に六千四百万円を計上しています。

救急医療対策では、これからの救急需要に対応するため第一次救急・第二次救急体制の整備について調査検討します。

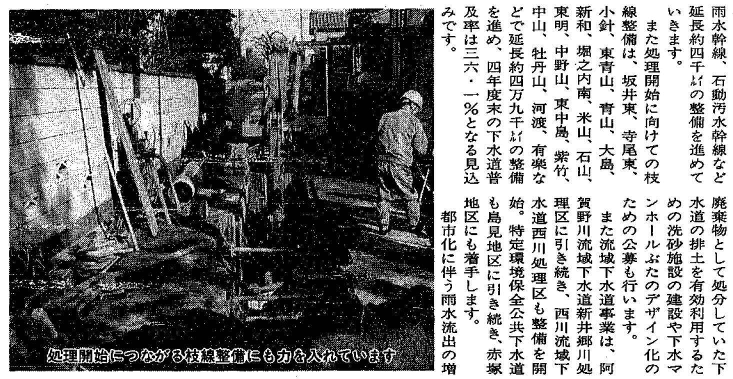
医療関係では、市民病院にX線診断画像を高精度にするFCRシステムを導入、血液自動分析装置、人工心肺装置などの更新を行い先端医療の推進を図っていきます。

このほか、地区保健センターの機能の拡充を含めた中央保健所構想の策定を行います。看護に対する知識と必要性を普及・啓発する「看護の心」普及事業や、高校生を対象とした一日看護婦（士）体験事業などを開催します。また、看護職を養成する准看護学校への助成を拡充します。

水と緑 環境都市

下水道予算は20％増

浸水対策の強化も


処理開始につながる枝線整備にも力を入れています

公共下水道の建設は、平成七年度末普及率四六・四％を目標に整備を進め、新年度は引き続き年平均三％の普及率向上を目指し、百六十億円（対前年度比二〇・八％の増）を計上しました。

幹線管渠の整備は、坂井輪幹線（大堀）の伸長や関屋大橋への圧送管架設工事、真砂雨水幹線、石動汚水幹線など延長約四千㍍の整備を進めていきます。

また処理開始に向けての枝線整備は、坂井東、寺尾東、小針、東青山、青山、大島、新和、堀之内南、米山、石山、東明、中野山、東中島、紫竹、中山、牡丹山、河渡、有楽などで延長約四万九千㍍の整備を進め、四年度末の下水道普及率は三六・一％となる見込みです。

処理場・ポンプ場の整備は、平成五年度に予定している関分以西の処理開始に向けての中部下水処理場と坂井輪ポンプ場の整備。浸水対策強化のための大曲ポンプ場や処理区域拡大による木戸中継ポンプ場の整備も行っていきます。

目新しいところでは、産業廃棄物として処分していた下水道の排土を有効利用するための洗砂施設の建設や下水マンホールぶたのデザイン化のための公募も行います。

また流域下水道事業は、阿賀野川流域下水道新井郷川処理区に引き続き、西川流域下水道西川処理区も整備を開始。特定環境保全公共下水道も島見地区に引き続き、赤塚地区にも着手します。

都市化に伴う雨水流出の増大による市街地の浸水対策にも力を入れ、九億八千五百万円を計上。船見処理区や山の下地区では本格的な改良事業に着手します。また上新栄町、五十嵐一の町、五十嵐中島、大形本町、石山、小金町への排水管の布設や改修を積極的に行うほか、雨水を地下に浸透させる施設の設置も図っていきます。

さらに助成・融資制度も充実。私設排水路整備と私道等排水設備工事への助成率を三分の二から五分の四に引き上げるとともに、排水設備設置資金貸付制度の融資条件を緩和し、利用しやすくしました。

阿賀野川右岸緑地整備に着手

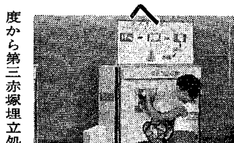
水と緑を生かし快適な環境都市の創造のため、公園や緑地の整備にも力を注ぎ、十八億五千九百万円を計上。山の下海浜公園、濁川公園、青山海浜公園、西海岸公園「思索の路」などを引き続き整備するとともに、新たに児童の健全な遊び場、住民の憩いの場として五十嵐第二公園の整備に着手します。また都心部の杜整備事業は、東公園に続いて曙公園にも着手、地域的特性を生かしながら魅力ある公園として再整備を行います。地下駐輪場の建設が行われている石宮公園の調査設計も盛り込まれています。

緑地の整備については、信濃川リバーサイド緑地（やすらぎ堤）の整備を進めるとともに阿賀野川右岸緑地の整備に着手します。

また、的場遺跡の保存と活用を目的とした史跡公園の基本計画や植物園の基本構想調査なども盛り込まれています。

緑をまちの中に積極的に増やすためには一億五千八百万円を計上。西川緑地整備や今年度完成二十周年を迎える関屋分水路のサクラ植栽、街並緑化を引き続き推進するとともに、新たに不用となった樹木の再利用や市民の手づくりによる花壇づくり事業に着手します。また道路に面した民有地の生け垣化推進のため、市民が新たに生け垣を設置する費用への助成制度も新しくスタートさせます。

ごみ減量化に 資源リサイクルセンター建設調査へ



清掃関係では、ごみの減量化、リサイクルの推進が緊急の課題であることから、資源リサイクルセンター建設に向けての調査やリサイクル推進懇談会の設置、集団資源回収やあきびんポスト、くうかん鳥の拡大を図ります。また、家庭で堆（たい）肥を作るコンポストの購入を助成する制度を設けるほか、五月三十日をごみゼロの日として減量キャンペーンを実施します。

浄化槽関係では、し尿と生活雑排水の処理を同時に行う合併処理浄化槽設置者に対する助成を引き続き行います。

埋立処分地整備では、四年度から第三赤塚埋立処分地で造成工事に着手するほか、太夫浜埋立処分地第二期分で供用を開始します。

老朽化が進んでいる亀田焼却場では大規模改修を進めていますが、新焼却場建設の準備費として一億三千万円を計上しています。

公害対策関係では、電気自動車の購入、小学生環境副読本の編集、子ども環境体験学習の開催などの新規事業に八百八十万円を計上するほか、酸性雨自動分析システムを導入し監視体制を強化。鳥屋野潟浄化では三年度に引き続き流域世帯に油処理袋の普及や、浄化推進指導員制度の運営などを通し積極的に取り組みます。また、四年度には西川流域が生活排水対策重点地域に指定される見込みで、鳥屋野潟と同じく生活排水対策推進計画の策定を行います。

三年度から建設を進めてきた新食肉センターについては二十七億円を計上し、年内に完成。五年度当初のオープンを予定しています。また、これに伴い、食肉検査体制の近代化、充実を図るために、同センター敷地内に新食肉衛生検査所を三億五千万円で建設します。

新火葬場については、引き続き建設を進めます。

コープ住宅の普及を推進

市営住宅の建設には十五億一千九百万円を計上。新規事業は、寺尾第一団地の建て替えに着手、第一期工事として二カ年で二十四戸の完成を目指します。また新設は内野駅前団地。五年度までに二十九戸を完成、新年度は五億六百万円を計上。継続事業では、現在、石山団地で百三十二戸の建設を進めており、うち六十六戸を完成、八億四千三百万円を投じます。

高齢化など時代に対応した施策も推進します。一つはシルバーハウジング早川町（仮称）の調査設計。これは生活援助員やデイサービスセンターを設けた高齢者向け市営住宅の建設へ向けての調査設計費で四千万円を計上。二つ目は全国的にも珍しいコープ住宅（間取りなどが自由に決められる共同持ち家住宅）の普及推進。近年の土地価格や建設費の高騰に対応しようというもので、六百万円を計上しています。

また、地域の特性を踏まえた住まいづくりを推進するため、一千万円を計上して地域住宅計画（HOPE計画）の策定調査も行います。

"119番"の位置がわかる通信指令施設を整備

消防行政では、災害位置の的確な把握のため消防緊急通信指令施設を二カ年で整備。救命救急士の乗務する高規格救急自動車、災害弱者の救助に消防レスキューシュートを配備します。

交通事故対策では、県の高齢者交通事故防止モデル地区の指定を受け、より参加しやすい交通教室などを開催。交通安全フェスティバルも三年度に引き続き開催します。

家庭での防災への備えと自主防災組織の育成のため、四年度から三カ年で防災読本を機会ごとに配布するほか、防災ビデオテープの貸し出しを始めます。

上水道

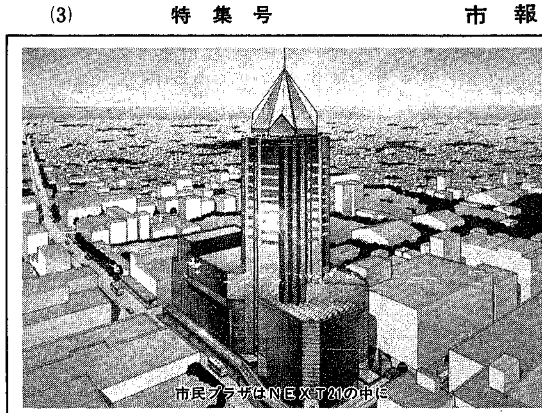
大口径管布設を推進

上水道では、整備を続けてきた内野配水場の改良が完成します。近年の水需要の時間的・地域的変化に対応し、配水幹線の大口径管の布設に三億四千万円を計上。老朽管の布設替え事業費を大きく増額、石綿セメント管の解消を急ぎます。

このほかにも配水管整備、出水不良改善、浄水場施設整備などを実施し、安全な水質、安定した給水を図っていきます。

豊かな心 国際文化都市

市民文化会館を白山地区に建設


市民プラザはNEXT21の中に

白山地区に建設されることとなった市民文化会館については、約二千席の音楽専用ホールと約一千席の演劇ホールからなるものとし、全国から幅広くアイデアとデザインを募集する公開提案競技や測量調査のために一億一千百万円、建設基金の積立に二十億円を計上、国際文化都市にふさわしい内容の整備と建設資金の充実を図ります。

平成五年にオープンする仮称・市民プラザ（旧市役所跡・NEXT21内に建設）の愛称募集や開館記念事業の準備などに二千二百万円を計上しています。

マリンピア日本海については、道路案内板、施設整備などの費用に九千三百万円を計上し、企画展示の充実など、より一層親しまれる水族館を目指します。

美術館では常設展示室を二カ年で増築、四年度は三億二千五百万円を計上。美術資料・企画展も一層充実します。また開館十周年に向けた公募彫刻展の募集を開始します。

新潟国際情報大学建設に着手

平成六年開校に向けて準備が進められている新潟国際情報大学（仮称）がいよいよ建設に着手することから、新年度の建設費の二分の一にあたる十一億七千八百万円を助成します。

いきいきスクール推進事業を実施

教育の内容面では、小学校六校・中学校三校で「いきいきスクール」と題し、心豊かで創造性に富んだ児童生徒育成のため、三カ年継続で課題解決の推進を図ります。中学校の英語の授業に派遣する英語指導助手（AET）を常勤雇用増員などでより充実。学力向上対策を四、五年度は小学校七校、中学校三校で実施。中学校の新学習指導要領に即した指導計画書の作成も計上されています。また全日本音楽教育研究大会の五年度新潟開催に伴い、小中学校の音楽備品を充実します。

学校保健の面では耳鼻咽喉科・眼科の校医を増員し疾病予防に努めます。

コンピュータ教育では中学校各校へのコンピュータ導入を進めるほか、総合教育センターに研修棟増設の設計に着手。教育相談センターでは学校・地域での児童・生徒の問題行動に対応する巡回相談などを充実。市義務教育史は昭和編（三）の編さんに取りかかります。

幼児教育では、西幼稚園で新たに三歳児受け入れを開始。私立短期大学・高等学校・中学校・幼稚園への助成を拡充し引き続き行います。

明鏡高等学校を移転改築

学校施設関係では、市民文化会館建設に向け、老朽化の進んだ市立明鏡高等学校の沼垂地区への移転改築に着手します。

このほか、小針小学校校舎を二カ年で改築。紫竹山小学校新設・栄小学校改築は四年度で完成します。曽野木小・内野中・中野小屋中校舎増築、入舟小・舟栄中学校舎改修、沼垂小、濁川小体育館改築を実施するほか、大規模改造を南万代小・曽野木小・笹口小・木戸小・白新中で実施。酒屋小・鳥屋野小・山潟中ではグラウンドなどの用地造成を行います。余裕教室利用では上所小に「集いの木の部屋」を、松浜小に和室を設けます。

このほかにも老朽校舎大規模改修、武道場改築、プール改築、下水道やグラウンド、屋内体育館の整備などを各校で見込んでいるほか、四月から始まる小学校一・二年生の新教科・生活科の関連施設の整備を順次始めます。

ウラジオストクウィーク開催 環日本海駅伝大会も

少年少女の国際交流を一層推進（大畑少年センターで）

国際化の推進については、姉妹・友好都市との交流を軸に展開します。ガルベストン市からは親善使節を迎え入れ、ハバロフスク市は使節団の相互訪問で交流を図ります。ハルビン市とは市長を団長とする代表団の交流を行います。昨年新たな姉妹都市提携を行ったウラジオストク市には日本語講師を引き続き派遣するほか、今年五月に新潟市でウラジオストクウィークを開催して同市の物産・文化を広く紹介します。また、七月に開放を記念して行われる式典参加のため県と共同で「県民の船」を派遣します。新しい交流に踏み出したキングストン・アポン・ハル市へは、福祉使節団を派遣して友好を一層拡大させます。

児童・生徒の交流としては、市内の小・中・高校生二十人をハバロフスク、ウラジオストクに派遣、ハル市から十人の生徒交流団を受け入れ、友好体験を積んでもらい今後の交流の基礎とします。

スポーツ交流では、四姉妹・友好都市など海外六チームを招き、第一回環日本海新潟駅伝競争大会を十月に開催します。

三川自然の森にログハウス

社会教育の面では、図書館の日曜開館を拡大。沼垂図書館は全日曜日、舟江図書館と各分館は第一・三日曜日に開館し、所蔵図書充実も図ります。西地区公民館には駐車場を増設し、老朽化した中央公民館の建設調査費を計上。青少年三川自然の森には宿泊もできるログハウスを建設します。また学校五日制に向けた大畑少年センターでの体験学習事業や、新潟の歴史を知る古代史セミナーを開催するほか、時代に合った生涯学習の場「市民カレッジ」開設の調査を開始します。

中央図書館・新郷土資料館の建設調査を継続、歴史的建造物を建築学的に調査して今後の保存研究資料とします。

北地区体育施設建設へ

第10回を迎える新潟マラソン

スポーツ関係では、市民文化会館の建設に向け、白山庭球場の移転新設用地を取得。地区スポーツの拠点・北地区体育施設（仮称）の用地を取得して設計に着手します。八月には四千人が集まる全日本中学校陸上競技大会の運営費に補助。それに合わせ陸上競技場サブトラックの整備を図ります。

市体育協会の基本財産は二億円を積み三億円に増額してより広くスポーツ振興を図ります。十回目を迎える新潟マラソン、市民綱引き大会などのほか、ニュースポーツの全国・県大会への予選も兼ねた地区大会や教室を開催し、生涯スポーツ普及に努めます。